

はじめに、東日本大震災で被災された皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。皆さまの安全と一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さてこの度、2010年度の事業内容や経営内容などをご説明した「ディスクロージャー誌」を発刊いたしました。ぜひご一読いただきたくお願いいたします。

2010年度のがわが国経済は、一部で回復基調の動きがみられたものの、雇用の不安定、所得情勢は依然として改善されておらず、デフレの進行が持続するなど、景気回復感の乏しい停滞感を感じる経営環境の厳しい一年でした。

農業を取り巻く環境も、食料自給率向上に向けた戸別所得補償制度の導入や改正農地法施行による農地の集積・流動化に向けた動きが始まる一方で、猛暑から豪雪そして噴火と続く自然災害と口蹄疫・鳥インフルエンザの発生は農畜産物に多額の被害をもたらしました。

さらに、TPP（環太平洋連携協定）問題については農業者とJAグループ役職員が一体となり、参加阻止に向けて広く社会に理解を求める運動を展開しています。

JAはだのでは、このような環境の中で、運営基本構想に基づく第二次中期経営計画（2009年度～2011年度）中間年度の実践に取り組みました。

組織運営では、組織基盤の強化と拡充に向けて、「組合員一万世帯」を目標に加入促進運動を展開しました。また、組合の基礎組織である生産組合への結集と活性化を目的に活動支援を行いました。

事業活動では、「はだの都市農業支援センター」と連携して「地域農業振興計画」の実践をすすめ、農業生産工程管理（GAP）導入の推進、観光農業促進や多様な担い手の育成、地域ごとに営農振興の課題解決に取り組みました。また、「はだのじばさんず」を「地産地消」実践の拠点として出荷者拡大による委託販売品目の充実、品質の向上と併せて生産履歴記帳の徹底指導により、消費者に支持される店舗運営につとめました。生活福祉事業では健康管理活動の実践と女性部が主体となり積極的に生活文化活動を展開しました。

さらに、新東名高速道路建設に向けた用地買収がすすむ中、情報提供と農業面と生活面を併せた総合的な相談対応に取り組みました。

経営管理では、JA運営への女性参画拡大を目的に女性理事選出のあり方を検討するとともに、信頼されるJAづくりのため、業務改善と効率化を目的に内部統制システムの構築をすすめました。また、コンプライアンス態勢の充実強化と厳格な資産査定により経営の健全性確保につとめました。

JAはだのでは、地域農業の振興に軸足を置き、組合員をはじめ地域住民との豊かな社会づくりに向けた役割を果たすため、協同組合運動の躍進に向けた活動に取り組んでまいります。

皆様の一層の参加、参画および利用結集をお願い申し上げます。

秦野市農業協同組合  
代表理事組合長 古谷 茂男